

## 経済レポート

# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2017年2月)

～ 現状判断DIは2ヶ月ぶりに上昇 ～

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

3月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の2月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 季節調整値)**は、前月差0.7ポイント上昇の50.3と2ヶ月ぶりに上昇した。原数値では50.9と前月から0.9ポイント上昇し、横ばいを示す50を小幅上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同0.4ポイント上昇の48.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同2.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った(注1)。

### 現状判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
16 12	50.1	1.4	51.4	0.0	51.3	5.3	51.2	2.6	50.5	6.5	49.6	2.5	52.9	2.9	54.7	2.9
17 1	49.6	-0.5	49.8	-1.6	50.0	-1.3	48.6	-2.6	48.5	-2.0	47.0	-2.6	53.0	0.1	51.9	-2.8
2	50.3	0.7	48.6	-1.2	50.9	0.9	48.5	-0.1	48.9	0.4	46.6	-0.4	55.2	2.2	52.3	0.4

**2月の先行き判断DI(2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断 季節調整値)**は、前月差4.2ポイント上昇の52.3と4ヶ月ぶりに上昇した。原数値では52.8と前月から4.2ポイント上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同3.2ポイント上昇の51.6と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同6.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。

### 先行き判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
16 12	51.0	0.0	50.9	-0.4	48.8	0.6	49.0	-0.1	48.0	1.3	47.6	-0.1	50.7	-0.3	52.1	0.2
17 1	48.1	-2.9	49.4	-1.5	48.6	-0.2	49.7	0.7	48.4	0.4	48.9	1.3	49.0	-1.7	51.3	-0.8
2	52.3	4.2	50.6	1.2	52.8	4.2	51.5	1.8	51.6	3.2	51.2	2.3	55.2	6.2	52.1	0.8

**現在の景気の水準自体に対する判断DI(季節調整値)**は、2月は前月差0.6ポイント低下の49.1と5ヶ月ぶりに低下した。原数値では49.6と前月から0.8ポイントと2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を19ヶ月連続で下回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同1.5ポイント上昇の47.1と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を35ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同0.5ポイント低下の54.9と3ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す50を5ヶ月連続で上回った。

### 現状判断DI(水準)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
16 12	48.0	0.1	48.3	-0.1	49.1	4.5	48.0	2.0	46.8	6.1	45.4	2.2	54.0	1.8	53.4	1.8
17 1	49.7	1.7	48.2	-0.1	48.8	-0.3	46.7	-1.3	45.6	-1.2	44.2	-1.2	55.4	1.4	52.0	-1.4
2	49.1	-0.6	46.8	-1.4	49.6	0.8	46.4	-0.3	47.1	1.5	43.3	-0.9	54.9	-0.5	52.9	0.9

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「持ち直しが続いているものの、引き続き一服感がみられる。先行きについては、海外情勢への懸念が和らぐ中、引き続き受注や求人増加等への期待がみられる」とまとめ、現状については先月の判断を据え置き、先行きについては先月に比べ見方を改善している。

(1月のまとめ)「持ち直しが続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、引き続き受注や求人増加等への期待があるものの、海外情勢への懸念の高まりがみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「景気の持ち直しの動きが続いている。先行きについては、世界経済の不確実性など懸念材料は残るものの、足下の高水準の株価動向が安心材料となる中、季節的な盛り上がりもあって改善方向の見方につながっている」とまとめられる。

(1月のまとめ)「景気の持ち直しの動きが続いているものの、天候要因などにより一服感が見られる。先行きについては、年度末にむけての需要の拡大への期待があるが、米国新大統領就任による不確実性の高まりなど海外情勢への懸念が高まっている」

景気の現状判断DI(季節調整値)は50.3と2ヶ月ぶりに上昇した。原数値では50.9と前月から0.9ポイント上昇し、横ばいを示す50を小幅上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連の現状判断は2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。1月に見られた天候要因による悪化は収まり、季節要因による盛り上がりもあって持ち直しの動きが続いている。企業動向・雇用関連の現状判断は3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。DIの水準は他地域に比べ高くなっている。

景気の先行き判断DI(季節調整値)は52.3と4ヶ月ぶりに上昇した。原数値では52.8と前月から4.2ポイント上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連の先行き判断は3.2ポイント上昇の51.6と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のDIは3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。世界経済の不確実性など懸念材料は残るものの、足下の高水準の株価動向が安心材料となる中、季節的な盛り上がりが先行き改善との見方につながっている。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部に試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

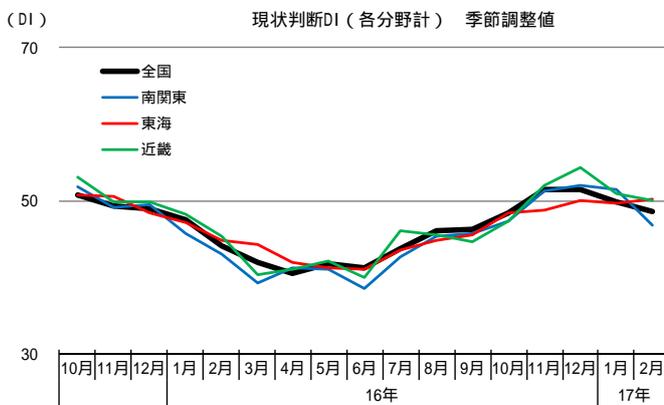
近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

## 1. DIの動向

### (1) 季節調整値の動向

#### 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DIは、前月差0.7ポイント上昇の50.3と2ヶ月ぶりに上昇した。南関東より高く、全国よりやや高く、近畿とほぼ同水準となった。

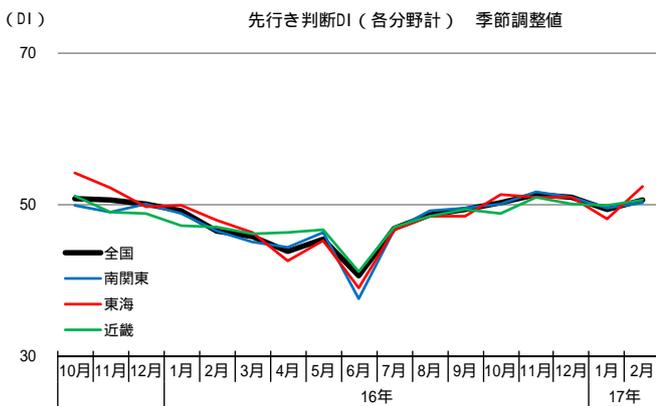


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	10月	50.7	51.9	50.8	53.1
	11月	49.3	49.1	50.6	49.8
	12月	49.0	49.5	48.5	49.9
	1月	47.6	45.8	47.2	48.3
	2月	44.1	43.0	44.9	45.4
	3月	42.0	39.3	44.3	40.3
	4月	40.6	41.3	42.0	41.1
	5月	41.7	41.0	41.2	42.1
	6月	41.2	38.6	41.1	40.0
	7月	43.8	42.7	43.6	46.0
	8月	46.0	45.4	44.9	45.6
	9月	46.3	45.8	45.6	44.7
17年	10月	48.4	47.3	48.5	47.3
	11月	51.4	51.3	48.7	52.1
	12月	51.4	52.0	50.1	54.4
	1月	49.8	51.4	49.6	50.9
	2月	48.6	46.8	50.3	50.1

#### 景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DIは、前月差4.2ポイント上昇の52.3と4ヶ月ぶりに上昇した。南関東より高く、全国、近畿よりやや高い水準となっている。

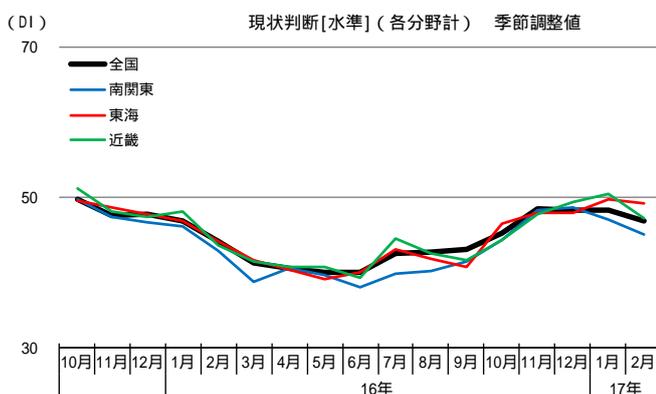


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	10月	50.7	49.9	54.2	51.1
	11月	50.5	49.0	52.1	48.9
	12月	50.0	50.0	49.6	48.8
	1月	49.1	48.7	49.9	47.2
	2月	46.4	46.5	47.9	47.0
	3月	45.7	45.1	46.2	46.1
	4月	43.7	44.3	42.6	46.2
	5月	45.4	46.3	45.2	46.7
	6月	40.5	37.5	38.9	41.1
	7月	46.9	46.6	46.6	47.0
	8月	48.6	49.2	48.5	48.4
	9月	49.4	49.5	48.5	49.4
17年	10月	50.3	50.1	51.2	48.7
	11月	51.3	51.6	51.0	51.0
	12月	50.9	51.0	51.0	50.0
	1月	49.4	49.5	48.1	49.8
	2月	50.6	50.2	52.3	50.6

#### 景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差0.6ポイント低下の49.1と5ヶ月ぶりに低下した。全国、南関東より高く、近畿よりやや高い水準となっている。



各分野計(季節調整値)

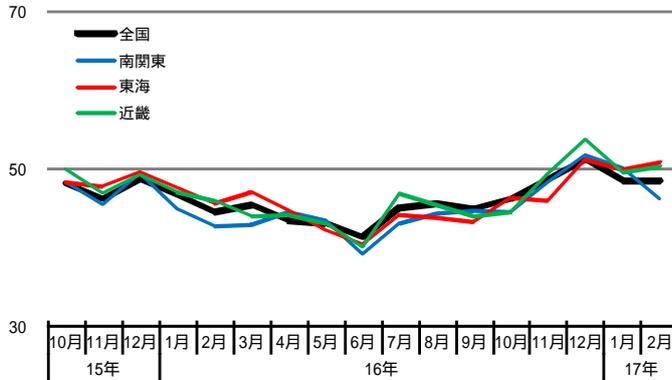
		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	10月	49.7	49.8	49.6	51.1
	11月	47.6	47.3	48.6	48.1
	12月	47.8	46.7	47.7	47.3
	1月	46.9	46.2	46.9	48.1
	2月	44.2	42.9	44.1	43.7
	3月	41.3	38.8	41.7	41.4
	4月	40.5	40.5	40.4	40.7
	5月	40.0	39.7	39.2	40.7
	6月	40.0	38.1	40.0	39.3
	7月	42.5	39.9	43.0	44.5
	8月	42.8	40.2	41.8	42.6
	9月	43.0	41.4	40.8	41.6
17年	10月	45.3	44.3	46.4	44.3
	11月	48.4	48.3	47.9	47.8
	12月	48.3	48.7	48.0	49.4
	1月	48.2	47.1	49.7	50.4
	2月	46.8	45.0	49.1	47.2

## (2) 原数値の動向

## 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差50.9と前月から0.9ポイント上昇し、横ばいを示す50を小幅上回った。全国、南関東より高く、近畿とほぼ同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(各分野計)

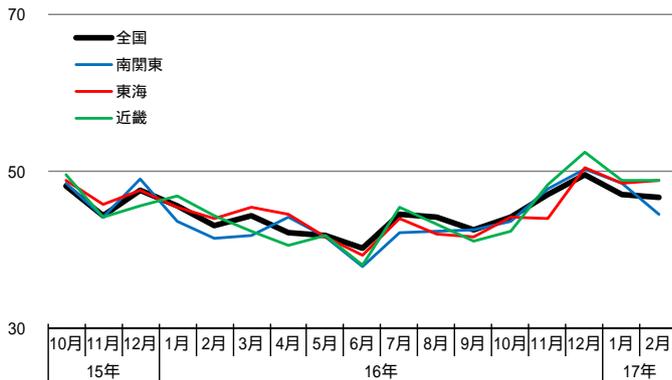


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	48.2	48.4	48.3	49.9
	11月	46.1	45.5	47.7	46.8
	12月	48.7	49.3	49.5	49.2
16年	1月	46.6	44.9	47.6	47.1
	2月	44.6	42.8	45.6	45.9
	3月	45.4	42.9	47.1	44.0
	4月	43.5	44.6	44.7	44.1
	5月	43.0	43.4	42.2	43.1
	6月	41.2	39.1	40.3	40.1
	7月	45.1	43.2	44.2	46.9
	8月	45.6	44.3	43.9	45.4
	9月	44.8	44.7	43.3	43.9
	10月	46.2	44.5	46.4	44.5
	11月	48.6	48.3	46.0	49.4
	12月	51.2	51.8	51.3	53.6
17年	1月	48.6	50.2	50.0	49.5
	2月	48.5	46.1	50.9	50.3

家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同0.4ポイント上昇の48.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。全国、南関東より高く、近畿と同水準となっている。

(DI) 現状判断DI(家計動向関連)

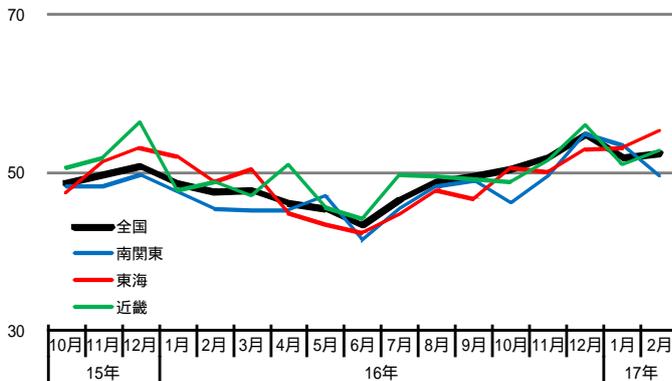


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	48.1	48.4	48.8	49.5
	11月	44.4	44.1	45.8	44.2
	12月	47.7	49.1	47.7	45.7
16年	1月	45.6	43.7	45.4	46.8
	2月	43.2	41.5	44.0	44.4
	3月	44.3	41.8	45.4	42.4
	4月	42.2	44.2	44.6	40.7
	5月	41.9	41.6	41.6	41.9
	6月	40.2	37.9	39.3	38.1
	7月	44.5	42.1	44.0	45.4
	8月	44.1	42.4	42.0	43.2
	9月	42.6	42.6	41.6	41.1
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3
	12月	49.6	50.4	50.5	52.4
17年	1月	47.0	48.6	48.5	48.8
	2月	46.6	44.5	48.9	48.9

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同2.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。

(DI) 現状判断DI(企業動向・雇用関連)

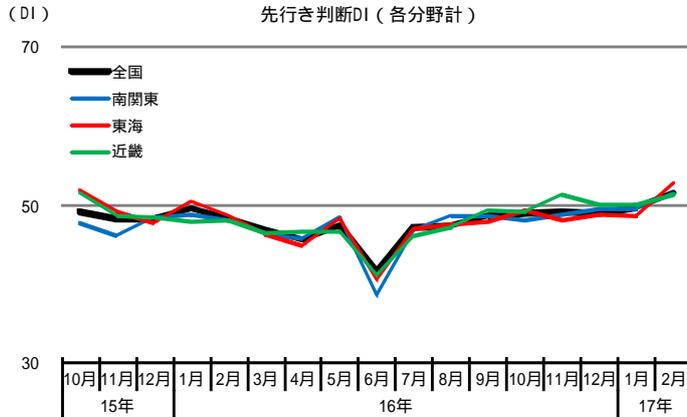


企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	48.5	48.3	47.3	50.6
	11月	49.7	48.3	51.3	51.8
	12月	50.8	49.7	53.1	56.4
16年	1月	48.6	47.5	51.9	47.7
	2月	47.5	45.3	48.7	48.8
	3月	47.8	45.3	50.3	47.0
	4月	46.1	45.3	44.8	50.9
	5月	45.3	47.1	43.4	45.6
	6月	43.2	41.5	42.3	44.0
	7月	46.4	45.3	44.7	49.7
	8月	48.7	48.3	47.7	49.4
	9月	49.4	49.0	46.7	49.2
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5
	12月	54.7	54.9	52.9	56.0
17年	1月	51.9	53.4	53.0	50.9
	2月	52.3	49.5	55.2	52.7

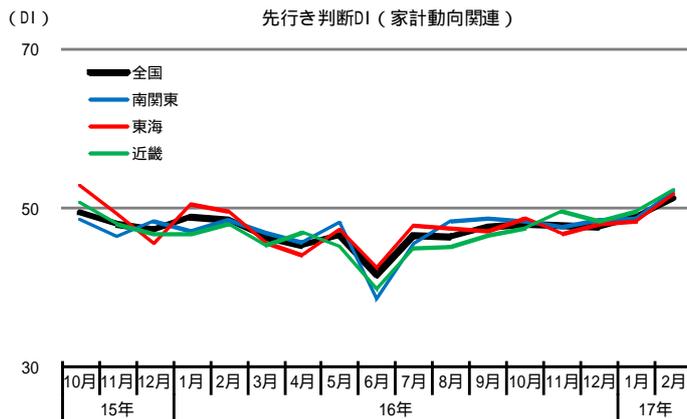
## 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I（各分野計）は、前月差4.2ポイント上昇の52.8と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。全国、南関東、近畿よりやや高い水準となっている。


 各分野計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）  
DI

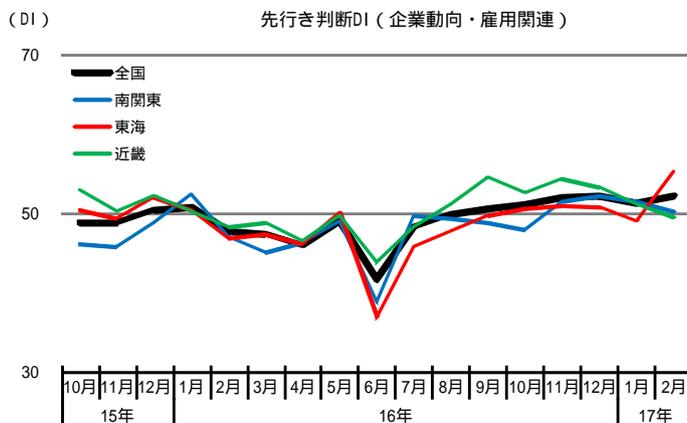
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	49.1	47.7	51.9	51.4
	11月	48.2	46.1	49.2	48.7
	12月	48.2	48.5	47.7	48.5
16年	1月	49.5	48.8	50.4	47.9
	2月	48.2	48.0	48.6	48.0
	3月	46.7	46.3	46.3	46.5
	4月	45.5	45.8	44.8	46.7
	5月	47.3	48.5	48.2	46.6
	6月	41.5	38.7	40.5	41.1
	7月	47.1	46.8	47.1	46.1
	8月	47.4	48.6	47.5	47.1
	9月	48.5	48.7	47.9	49.3
	10月	49.0	48.1	49.4	49.2
	11月	49.1	48.8	48.2	51.2
	12月	49.0	49.6	48.8	50.0
17年	1月	49.7	49.6	48.6	50.1
	2月	51.5	51.5	52.8	51.3

家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同3.2ポイント上昇の51.6と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。


 家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）  
DI

		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	49.3	48.5	52.7	50.6
	11月	47.9	46.3	49.1	47.9
	12月	47.2	48.3	45.5	46.7
16年	1月	48.8	47.2	50.5	46.6
	2月	48.5	48.5	49.5	47.9
	3月	46.4	46.9	45.7	45.3
	4月	45.3	45.6	44.1	46.8
	5月	46.5	48.2	47.3	45.1
	6月	41.5	38.6	42.4	39.7
	7月	46.6	45.4	47.7	45.0
	8月	46.3	48.2	47.4	45.0
	9月	47.5	48.6	47.0	46.5
	10月	47.9	48.2	48.7	47.4
	11月	47.7	47.6	46.7	49.5
	12月	47.6	48.4	48.0	48.2
17年	1月	48.9	48.7	48.4	49.6
	2月	51.2	52.1	51.6	52.3

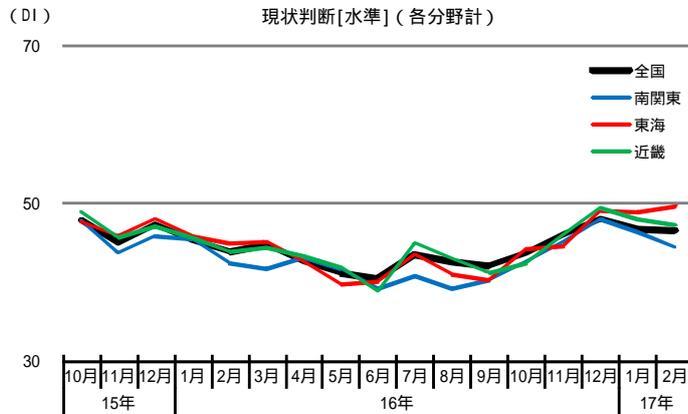
企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同6.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。


 企業動向関連＋雇用関連  
DI

		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	48.7	46.0	50.3	52.9
	11月	48.9	45.8	49.4	50.3
	12月	50.3	48.7	52.1	52.1
16年	1月	50.8	52.3	50.3	50.3
	2月	47.7	47.1	46.8	48.3
	3月	47.4	45.0	47.4	48.8
	4月	46.0	46.3	46.2	46.5
	5月	49.0	49.0	50.0	49.7
	6月	41.6	38.8	36.9	43.8
	7月	48.3	49.8	45.7	48.3
	8月	49.8	49.3	47.7	51.1
	9月	50.6	48.8	49.7	54.5
	10月	51.1	47.8	50.6	52.6
	11月	51.9	51.5	51.0	54.4
	12月	52.1	52.2	50.7	53.3
17年	1月	51.3	51.5	49.0	51.2
	2月	52.1	50.2	55.2	49.5

## 景気の現状判断（水準）

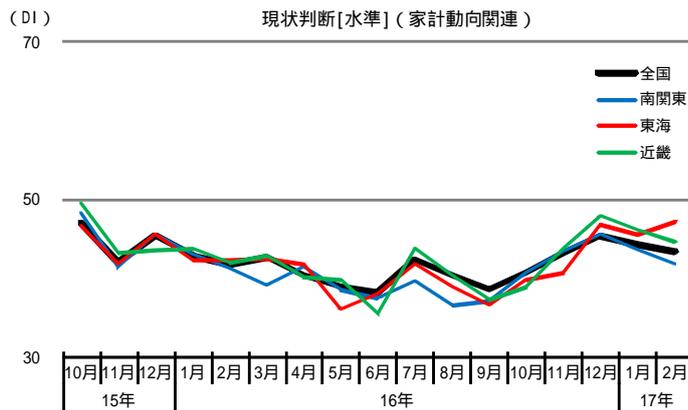
現在の景気的水準自体に対する判断DI（各分野計）は、前月差0.8ポイント上昇の49.6と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を19ヶ月連続で下回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	47.7	47.7	47.6	48.9
	11月	44.9	43.6	45.8	45.7
	12月	47.3	45.8	48.0	47.1
16年	1月	45.3	45.5	45.9	45.7
	2月	43.9	42.5	44.9	43.8
	3月	44.7	41.7	45.1	44.5
	4月	42.6	43.1	42.7	43.2
	5月	41.1	41.7	39.6	41.9
	6月	40.3	39.1	40.1	38.9
	7月	43.4	40.8	43.4	44.8
	8月	42.5	39.2	41.0	42.9
	9月	42.0	40.2	40.2	41.2
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9
	12月	48.0	48.0	49.1	49.4
17年	1月	46.7	46.3	48.8	48.1
	2月	46.4	44.3	49.6	47.2

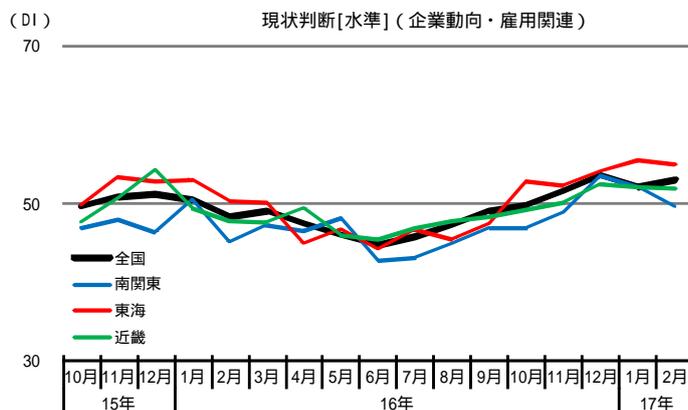
家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、1.5ポイント上昇の47.1と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を35ヶ月連続で下回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	46.9	48.2	46.6	49.5
	11月	41.9	41.5	41.8	43.2
	12月	45.4	45.5	45.5	43.6
16年	1月	42.8	43.1	42.3	43.8
	2月	41.7	41.1	42.2	41.9
	3月	42.6	39.1	42.5	42.8
	4月	40.3	41.4	41.7	40.1
	5月	38.8	38.6	36.0	39.8
	6月	38.2	37.4	38.0	35.4
	7月	42.3	39.7	41.8	43.8
	8月	40.3	36.6	38.9	40.4
	9月	38.6	37.0	36.6	37.3
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7
	12月	45.4	45.6	46.8	47.8
17年	1月	44.2	43.5	45.6	46.1
	2月	43.3	41.8	47.1	44.5

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同0.5ポイント低下の54.9と3ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す50を5ヶ月連続で上回った。南関東、近畿より高く、全国よりやや高い水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
15年	10月	49.5	46.8	49.7	47.6
	11月	50.8	48.0	53.2	50.6
	12月	51.1	46.4	52.8	54.3
16年	1月	50.4	50.5	52.9	49.4
	2月	48.3	45.1	50.3	47.7
	3月	49.0	47.3	50.0	47.6
	4月	47.3	46.5	44.8	49.4
	5月	45.9	48.0	46.7	45.9
	6月	44.8	42.7	44.2	45.5
	7月	45.8	43.1	46.7	46.9
	8月	47.2	44.9	45.4	47.7
	9月	49.1	46.8	47.4	48.3
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1
	11月	51.6	48.7	52.2	50.0
	12月	53.4	53.5	54.0	52.4
17年	1月	52.0	52.0	55.4	52.1
	2月	52.9	49.5	54.9	51.9

## 2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

### (1) 景気の現状判断

2月の東海地区の景気の現状判断DI（季節調整値）は前月差0.7ポイント上昇の50.3と2ヶ月ぶりに上昇した。原数値では50.9と前月から0.9ポイント上昇し、小幅ながら横ばいを示す50を上回った。分野別（原数値）にみると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同0.4ポイント上昇の48.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同2.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。2月調査では、回答総数が前月とほぼ同水準となる中、「変わらない」が大幅に減少し、「良くなっている」、「やや良くなっている」が増加した。「やや悪くなっている」、「悪くなっている」が小幅増加したが、全体では景気の現状を改善方向で見ているウォッチャーの比率が増加した。

現状判断 (回答者数)	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	回答合計
2016年2月調査	1	42	120	53	16	232
2月調査	1	42	120	53	16	232
3月調査	1	39	129	52	8	229
4月調査	1	32	119	64	9	225
5月調査	1	18	127	63	13	222
6月調査	3	21	107	82	17	230
7月調査	3	24	129	63	10	229
8月調査	1	24	134	58	12	229
9月調査	1	24	126	62	12	225
10月調査	3	33	136	53	10	235
11月調査	5	29	132	54	11	231
12月調査	5	53	113	40	6	217
2017年1月調査	2	47	133	37	7	226
2月調査	6	52	120	38	9	225

家計動向関連の回答ごとの内訳を見ても、回答総数がほぼ同水準（1月：152 2月：153）となる中、「悪くなっている」（5 8）が増加、「変わらない」（90 81）が減少し、「良くなっている」（2 3）「やや良くなっている」（26 32）がともに増加となり、景気の現状を改善方向で見ているウォッチャーの比率が増加した（「やや悪くなっている」（29 29）は変わらず）。

改善方向の回答（良くなっている、やや良くなっている）が増えたが、年度末、バレンタインデー商戦、節分といった季節要因をあげるコメントが目立つ。特段の理由はつけずに、来客数や客単価の増加を指摘し、景気は改善しているとしたコメントも複数ある。景気は改善しているが、理由として考えられる

のは季節要因がほとんどということだろう。

- ・来客数は増えており、客1組当たりの注文量も増えている。(一般レストラン従業員)
- ・年度末が近づき、予算消化の駆け込み需要が増加している。(一般小売店[書店]営業担当)
- ・節分のキャンペーンでは太巻き寿司が非常によく売れた。商品全般をみても、買い控えは感じられない。(スーパー店長)
- ・パソコンがよく売れている。洗濯機もやや高めの機種が人気である。(家電量販店店員)
- ・製造業の客を中心に年度末に向けて駆け込み需要が増えている。企業の宴会利用は、3か月前と比べると10%アップしている。(都市型ホテル営業担当)
- ・年度末が近くなり、3か月前と比べると売上がやや良くなっている。(通信会社営業担当)

2月に始まったプレミアム・フライデーについて言及したコメントもいくつか見られる。効果があったとの声もあるが、否定的なコメントの方が数は多い。

- ・バレンタインデーの催事の売上は前年を大きく上回った。プレミアムフライデーも来客数や売上は増加し、一定の効果が出ている。(百貨店経営企画担当)
- ・家族葬が増えて、花を使う祭壇等はかなり減少している。ギフト商品はまずまずの売上で、スーパーも前年並みの売上を維持している。プレミアムフライデーの効果は何もない。(一般小売店[生花]経営者)
- ・初めてのプレミアムフライデーは、今一つ盛り上がりには欠け、消費を喚起する材料は見当たらない。(百貨店経理担当)
- ・2月も店舗売上は前年同月比 93%となっている。プレミアムフライデーが始まったが、想定範囲内で大きな変化はない。今月は天候不良もあり、衣料や住居関連商品が足を引っ張っている。(スーパー販売促進担当)
- ・プレミアムフライデーに合わせて、店頭では 1.5 泊の旅行商品等を強化したが、効果はゼロだった。これから浸透して販売促進につながるかを見守りたいが、中小企業ではそれほど早帰りを実施しておらず、期待はしづらい。(旅行代理店従業員)

商店などでは、2月はあまり売上げが伸びないという季節性があるようだ。それ故、低調が続いているという声がある。また、昨年の2月はうるう年で今年は1日少なかった分、厳しくなったとのコメントもあった。

- ・例年2月は売上の少ない時期であるが、今年は、販売量、販売単価共に低調な状態が続いている。(商店街代表者)
- ・2月はあまり商品が動かない。2つの客層がバランスして売上は横ばいであるが、構成が変わっている。贈答品をたくさん利用する会社や客が一部にはあるが、大半の客は財布のひもが固く、交友範囲をできるだけ絞っている。(一般小売店[贈答品]経営者)
- ・バレンタイン商戦は好調だったが、主力の衣料品の不振は変わらない。高額所得者の消費もやや低調に推移している。うるう年の前年と比べると1日減った分厳しくなっている。(百貨店販売担当)
- ・例年2月は暇な時期であるが、例年以上に暇である。(理美容室経営者)
- ・2月はある程度覚悟をしていたが、なじみ客、一見客共に、これまでにないほど来客数が少ない。(衣料品専門店経営者)

インバウンド消費に関しては、引き続き好調との声がある。

- ・数字としては横ばいであるが、インバウンドは引き続き増加している。他業種では 24 時間営業の中止や宅配便サービスの見直し等、景気回復に伴う人手不足が続いている。(コンビニ企画担当)
- ・2月前半は販売量が伸びたが、低単価傾向で売上は微増である。後半はギフト需要、自家需要や高額品の動きも出ている。インバウンド需要が前月から続いており、結果として今月も前年比で 120%となっている。(百貨店販売担当)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答総数は1月調査と同数となり、「変わらない」が減少し、「やや悪くなっている」が増加した。決算期で好調との声がある一方で、決算期にもかかわらず不調との声もある。販売店による業績のばらつきは相変わらずである。

- ・例年、2月は新車販売台数が増えるが、今年も例年並みで推移している。(乗用車販売店従業員)
- ・2月は問い合わせ件数、アクセス件数共に増加しており、全体的に動きは良い。この動きは3月にもつながる。(乗用車販売店従業員)
- ・決算期が近づいているが市場は盛り上がり欠ける。新型車種への関心はそれなりに見受けられるが、購入決定までは至らない。客の財布のひもはまだ固い。(乗用車販売店従業員)
- ・販売量、新規来客数共に目標の8割程度で、決算期のにぎわいを感じられない。前年実績も下回り厳しい状況が続いている。車検等、工場への在庫量は前年同期を上回っており、良い状況である。(乗用車販売店従業員)

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年2月調査	0	5	5	1	0	11
3月調査	1	2	5	2	0	10
4月調査	0	1	5	2	0	8
5月調査	0	1	5	4	0	10
6月調査	0	1	3	3	1	8
7月調査	0	2	4	3	0	9
8月調査	0	1	6	1	0	8
9月調査	0	1	8	0	2	11
10月調査	0	2	5	4	0	11
11月調査	0	1	6	3	0	10
12月調査	0	2	6	1	0	9
2017年1月調査	0	4	4	1	0	9
2月調査	0	4	3	2	0	9

企業動向関連では、改善理由として、外需への期待、製造業の好調さ、設備投資の高まりなどを指摘するコメントがあった。

- ・我が国の景気は着実に上向いている。特に最近では倒産件数も少なくなっており、景気の良さを反映している。

(化学工業人事担当)

- ・米国の景気対策への期待もあり、直近の受注状況には大きな懸念はない。(電気機械器具製造業企画担当)
- ・放送、通信業界では設備投資意欲が高まっており、WiFi等、高速無線通信の関連機器の販売が増加している。これに対抗して、ケーブルテレビ業界でもFTTH等、高速化に向けたインフラ投資計画が進んでいる。(電気機械器具製造業(総務担当))
- ・中国の建機需要が回復しており、中国にある日系建機メーカー向けの部品輸出が増えている。(輸送業経営者)

トランプ大統領の影響で心配されていたメキシコへの投資案件が動き始めたとのコメントもあった。

- ・引き続き不透明感が漂うものの、メキシコ向け設備投資案件では、動き始めたものもある。(一般機械器具製造業営業担当)

雇用関連については、有効求人倍率など経済指標は引き続き良好な数字が出ている。職を探す者にとっては良好な環境が続いているようだが、求職者の減少傾向が続く中で新規求人が減少したとのコメントもある。また、人手不足は深刻な模様だ。

- ・求人数は、前年比、3か月前比共に約3割の増加となっており、2月の受注数としては過去最高を記録する等、好況となっている。(人材派遣会社支店長)
- ・各業種の企業が採用活動を活発化させて、有効求人倍率が上がっている。求職者もこの機会を逃さないよう活発に動いている。(人材派遣会社(営業担当))
- ・足元の新規求人数は、11か月ぶりに前年同月比マイナスとなり今後の動向に注視が必要であるが、求職者は依然として減少が続いている。(職業安定所所長)
- ・人手不足はかなり深刻で、年明けから人材採用への予算を確保できない企業が出てきている。(新聞社[求人広告]営業担当)

## (2) 景気の先行き判断

2月の東海地区の景気の先行き判断D I（季節調整値）は前月差4.2ポイント上昇の52.3と4ヶ月ぶりに上昇した。原数値では52.8と前月から4.2ポイント上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。分野別（原数値）にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同3.2ポイント上昇の51.6と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を13ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同6.2ポイント上昇の55.2と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。2月調査では、回答数が前回調査とほぼ同水準となる中で、「悪くなる」、「やや悪くなる」、「変わらない」が減少し、「やや良くなる」が大幅に増加、「良くなる」も増加している。景気の先行きを改善方向で見るウォッチャーの比率が増加した。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年2月調査	4	47	120	54	7	232
3月調査	2	38	124	54	11	229
4月調査	1	28	129	57	10	225
5月調査	1	36	139	38	8	222
6月調査	2	26	103	81	18	230
7月調査	4	28	143	45	9	229
8月調査	4	32	136	51	6	229
9月調査	4	33	133	50	5	225
10月調査	6	46	126	50	7	235
11月調査	3	46	123	49	10	231
12月調査	3	45	116	45	8	217
2017年1月調査	3	41	129	46	7	226
2月調査	6	59	120	34	6	225

家計動向関連の回答でも、2月調査の回答数は1月とほぼ同水準であった（1月：152 2月：153）。「悪くなる」（1月：5 2月：6）は若干増えたものの、「やや悪くなる」（30 24）、「変わらない」（88 80）がそれぞれ減少し、「やや良くなる」（28 40）が大幅に増加、「良くなる」（1 3）も増加した。結果、景気の先行きを改善方向で見るウォッチャーの比率が増加した。

家計動向関連では、先月は判断理由として米国新大統領就任の影響をあげる回答が多数あったが、2月は米大統領について言及したコメントは5件であった。引き続きトランプ効果に期待する声もあるが、先行きの不透明性を指摘するコメントの方が多い。

- ・米国の新大統領就任による影響で、幅広く景気が良くなる。（商店街代表者）
- ・米国の新大統領の影響も落ち着き、政権運営が安定すれば、年度替わりとの相乗効果で消費マインドが好転する。（その他専門店[雑貨]店員）
- ・足元の状況は悪くないが、米国の新大統領の言動による自動車関連業界への影響が懸念される。（スーパー

店長)

- ・北朝鮮問題や米国の新大統領の自国優先政策等、世界情勢への不安により海外旅行者数は伸び悩みが続く。国内旅行も卒業旅行や春休みの旅行には目を引く増加要因はなく、来客数も横ばいである。団体旅行も、国内旅行を中心に例年並みで、特筆すべき点はない。(旅行代理店従業員)
- ・当地域は輸出型企業が多く、円高でやや悪くなる。米国の新大統領の言動に大きく左右される傾向にあるが、実態の的確な把握が求められる。労働者不足と高齢化で徐々に衰退していく我が国の経済構造を、大きく変える必要がある。

卒業・入学、ひな祭り、ホワイトデー、年度末といった季節要因による改善を見込む声も相変わらず多数ある。

- ・春に向けては卒業・入学、婚礼や就職等で外出する機会が多くなるので、店も忙しくなる。(美容室経営者)
- ・季節や年度が替わることで必要な物が増え、購買意欲が高まる。(その他専門店[雑貨]店員)
- ・ひな祭りやホワイトデー等、イベント関係商材の動きによって変わってくる。(スーパー企画・経営担当)

引き続き株価が高水準で推移しているが、その好影響を指摘するコメントも多い。一方で一服感を指摘する声もある。

- ・株価の水準は、基調としては少しずつ高くなっている。3月からの大型催事の効果や春物商材にも期待が持てる。(百貨店経営企画担当)
- ・先行きは不透明であるが、株価が今の水準を維持すれば、主要客層の購買意欲は変化しない。(スーパーブック長)
- ・株価が安定しているため、引き続き良好である。(都市型ホテル営業担当)
- ・株価もあまり変わらず、現状維持が見込まれる。(商店街代表者)

トランプ大統領要因に限らず、世界経済の不透明性から先行きの見通しが立たないとのコメントが多数ある。

- ・世界情勢があまりにも不透明で、先行きがわからない。(一般小売店[和菓子]企画担当)
- ・しばらくは米国を始めとする世界情勢は不安定で、国内景気も不透明なため、消費にも様子見が続く。(スーパー営業企画)
- ・米国、欧州の不安定な政治・経済は、懸念材料である。(一般レストラン経営者)
- ・景気の持ち直しは一服感がある。世界情勢には懸念材料がある。(都市型ホテル経営者)
- ・米国や中国等の海外情勢にもより、先行きの見通しが立たない。(その他レジャー[スポーツレジャー紙]広告担当)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。回答数は1月調査から1減少する中、「変わらない」が減少し、「やや悪くなる」が増加した。先月のコメントにもあったが、エコカー減税改正による駆け込みへの期待がある一方、4月以降の落ち込みを懸念する声もある。

- ・マスコミがあまり報じていないので、今のところ大きな動きはないが、エコカー減税の改正でほとんどの車種が増税となる。それが世間に浸透してくれば、駆け込み需要が爆発的に発生する。(乗用車販売店従業員)

- ・足元の好調な動きは3月前半までで、4月以降は停滞する。(乗用車販売店経営者)
- ・取扱車種は減税・免税対象が多いが、3月からは増税となるため、販売量が少し落ち込む。(乗用車販売店販売担当)

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年2月調査	0	1	7	5	0	13
3月調査	0	0	10	1	1	12
4月調査	0	0	10	1	1	12
5月調査	0	3	8	2	0	13
6月調査	1	0	8	1	1	11
7月調査	0	4	7	1	0	12
8月調査	0	2	8	2	0	12
9月調査	0	1	11	1	0	13
10月調査	0	4	8	1	0	13
11月調査	0	2	7	4	0	13
12月調査	0	5	6	2	0	13
2017年1月調査	0	3	7	3	0	13
2月調査	0	3	4	5	0	12

企業動向関連で、トランプ大統領について言及したコメントは、家計動向関連同様、先月に比べれば少数となった。トランプ大統領の名前を直接あげないものの、メキシコ方面への設備投資への懸念など、トランプ大統領の政策に関連したコメントもある。どちらかという懸念材料としてとらえているが、あまり大きな影響はないとの見方もある。

- ・米国の新大統領の経済対策に左右されるが、過度な保護主義政策がなければ急激な落ち込みはなく、当面はやや上向きに推移する。(電気機械器具製造業企画担当)
- ・円安傾向で価格競争力はあるが、自動車向けの設備投資はメキシコ方面が多く、見通しが立たない案件も多数ある。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・大手自動車メーカーのおひざ元で、米国の新大統領の影響が気になるが、現時点では大きな変化はない。米国次第で、地域の景気も大きく揺れ動く懸念がある。(建設業経営者)
- ・我が国の景気は決して悪い水準ではないが、外部要因の影響を受けやすい。短期的には米国の新大統領への不安感により、やや悪くなる方向となる。(化学工業人事担当)

春になり暖かくなれば景気も改善するという季節要因だけのみの楽観的コメントも複数見られるが、あまり期待できないとの声もある。

- ・暖かくなるにつれて販売量は増加するが、消費者の節約志向は根強く、販売量の動きは予断を許さない。(食料品製造業営業担当)
- ・例年、春先は足元よりは良くなる時期だが、取引先から良い話が聞かれず、景気は現状のままと見込む。(パルプ・紙・紙加工品製造業総務担当)

・売手市場の求人状況や、新しい期のスタートで、春に向けて景気が悪くなるようには感じられない。(化学工業 総務秘書)

一方、原油関連の価格上昇を懸念する声も、先月に引き続き複数見られる。

- ・原油価格が上昇しており、景気への影響が懸念される。(輸送業従業員)
- ・燃料の軽油価格は、前年比でやや上昇する気配があり、先行きには懸念がある。(輸送業エリア担当)
- ・ナフサの価格上昇で、原料価格の値上がりが見込まれる。(化学工業営業)

雇用関連では、自動車関連において、4月以降も上向きとのコメントがあった。

- ・自動車の生産現場においては、4月以降も、国内販売、海外輸出共に上向きである。(アウトソーシング企業エリア担当)

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp